

めぐみのみず

作詞 山下近行
作曲 うらた剛

一、清らかな 水の流れば 大阿蘇の
雲に隠れる 頂に

天の宇が 地に滲みて
吉無田水源 元禄嘉永井手

二、永久の 命の湧水 滔々と
屋根を走るは 先哲の
知恵と汗との 水的路

吉無田水源 元禄嘉永井手

三、親ごころ 後の世のため 惜しみなく
幾百万の 手に依って
田代を通る いのち水
吉無田水源 元禄嘉永井手



吉無田の空を焦がす櫓の炎

ふれあいどんどや



1_ 櫓のおき火で鏡餅を竹にはさみこみ焼くさまは昔ながらの光景 2_ 櫓に火入れの大役を務めた地元住民で年男の田上幸一さん 3_ 高さ約10mの櫓から勢いよく火柱が立ちのぼり吉無田の天空を焦がした 4_ 「めぐみの水」を熱唱して会場を盛り上げたうらた剛さん 5_ 南田代第4区の生活を支えて田畑を潤している吉無田水源の湧水

小正月の地域行事「ふれあいどんどや」が1月15日、田代地区干無田集落で開かれました。この催しは、南田代第4区の集落2つが合同で地域の絆や活性化を目的に企画して、今年で3回目を迎えました。広場には、モウソウ竹で組んだ高さ約10mの櫓が準備。正月の飾りと一緒に点火すると、バチバチと音をたてながら火柱が立ちのぼりました。おき火ができると鏡餅を焼いて、ぜんざいにして体を温めました。今年は催しに合わせて、吉無田水源と元禄嘉永井手の恵みを歌にした「めぐみのみず」が初披露。参加した地域住民や帰省家族など約100人は、自然の恩恵に感謝しながら、1年間の無病息災を祈っていました。吉澤勝美区長は、「参加者の半数は初めての人ばかり。大げさなことはできないが、私たちの普通の生活に触れて、吉無田の良さを感じてもらえたらうれしい」と話していました。

編集後記

▼うれしいニュースを一つ。1月号の広報クイズに52通の応募をいただきました。広報担当になって、最多記録を更新しました。そこで今月は、皆さんから届いたラブレターをご紹介します。

⑩ ⑪

▼新年号をみながら、上野地区の方が天満宮のしめ縄を作られていた笑顔が、世の中が幸せになるように願いを込めておられる表紙に幸せを感じ、福を頂いた気持ちになりました。(小坂・さん)

▼いつも親子共に楽しみに届くの待っています。元々御船ではないのですが、すっかり御船人になりました。(P・N・滝尾大好き)

▼今年は辰年、年女です。還暦を迎え、子ども孫がお祝いをしてくれるそう、今から楽しみにしています。(水越・Hさん)

▼いつも楽しみに読んでいます。町のいろんなことが書かれて、すごく役に立ちます。熊本市内からお嫁に来て丸4年。広報みふねの大ファンです。(辺田見・Nさん)

▼孫娘が年女。いい年になるよう豆まきをして、悪いことを追い払いたいものです。スタッフの皆さま、1年間がんばってくださいね。楽しみに待っている人たちがいっぱいいますよ！(滝尾・Mさん)

▼木炭職人の佐方さんに感動です。私の家もコタツは炭で暖かいですよ！(滝尾・Yさん)



広報 みふね No.531

携帯サイトはこちらから→

